

輸出事業計画

※申請者名：(有)エコ・ライス新潟、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【背景】

急速に進む高齢社会（65歳以上が3,640万人）と少子化（15歳未満1,493万人）で国内での一人当たりの米の消費量は1962年の118.3kgをピークに2021年で51.5kgと半減以下となっている。

生産現場では高齢化、米価の下落、後継者不足など課題が山積し離農者が後を絶たない。その結果、耕作放棄地が拡大し農村部の荒廃化が進み、災害（山林の荒廃、山崩れ等）の発生原因にもなっている。

【課題】

<生産段階>

- ・農業従事者の減少、離農者の急増による稲作作業の受託の増加による人手不足や施設的能力不足、国際認証（HACCP、GGAP）の取得の必要性、現地ニーズ等に対応した価格と品質に合わせた生産

<加工流通段階>

- ・消費期限の延長、物流コスト（国内外）の低減

<販売段階>

- ・新たな需要開拓と継続的な販売先の開拓

2. 輸出事業計画の取組内容

<生産段階>

- ・コスト低減のための直播技術の導入、人手不足・重労働軽減、効率的な農薬・肥料散布をするためのスマート農業を普及する。
- ・生産者が共同使用できる規模の施設整備及びHACCPやGGAPの認証取得を目指す。
- ・輸出生産者の組織化、高付加価値米（低グルテリン米、高アミロース米、巨大胚芽米などの機能性米）の生産に取り組む。

<加工・流通段階>

- ・脱気・窒素充填による品質保持のための包装機を導入する。
- ・県内の新潟東港を活用することで運賃コストと港での保管費用などを低減する。

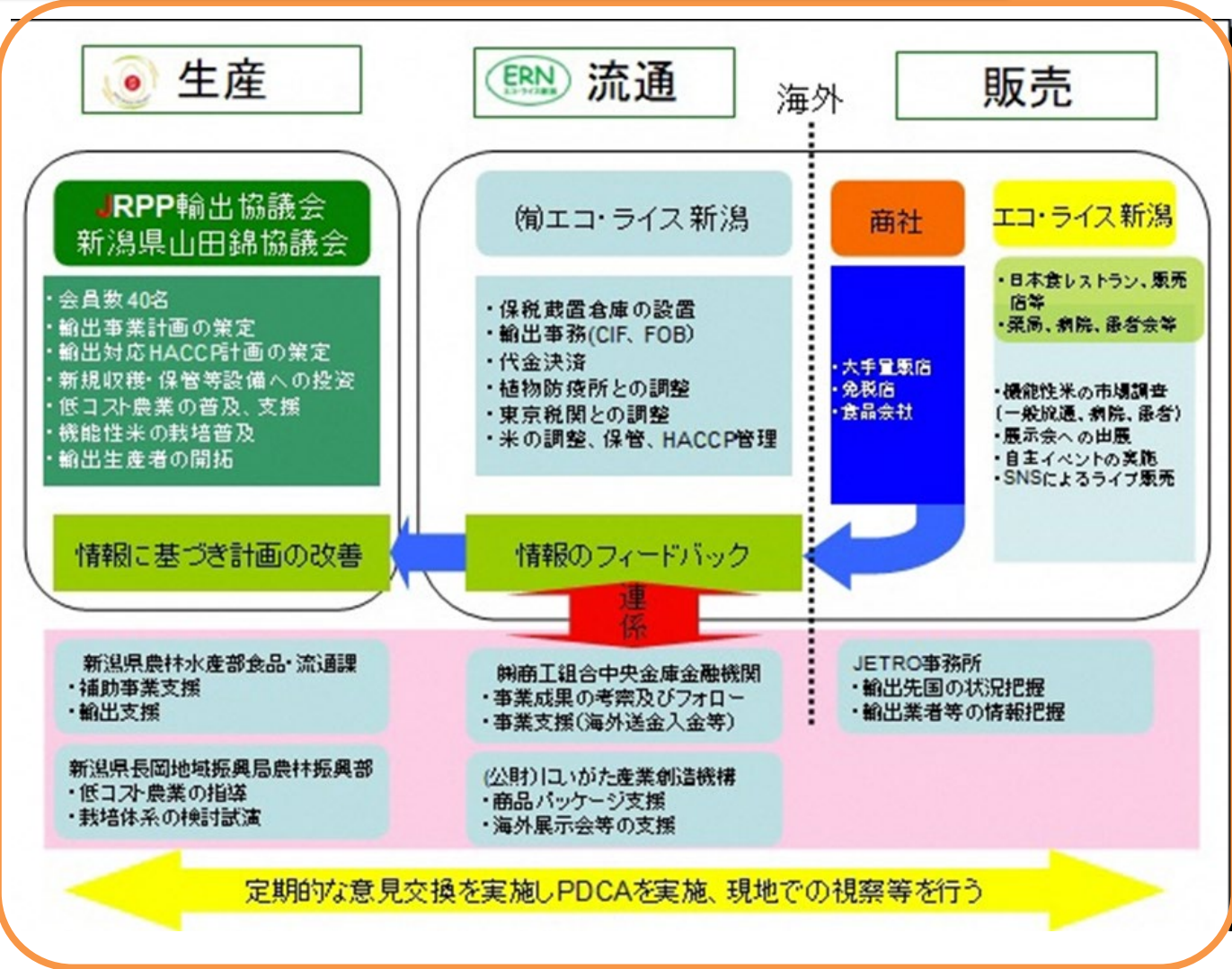
<販売段階>

- ・新形質米（機能性米）の普及のための食物アレルギーやグルテンフリー等に関する市場調査を実施する。
- ・新形質米のプロモーション活動を実施する。
- ・SNS等で新潟米の魅力を発信する。

輸出事業計画

※申請者名：(有)エコ・ライス新潟、品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状 (令和3年)	目標年 (令和8年3月)	備考
中越地区	輸出額(千円)	73,520千円	103,731千円	
	輸出量(トン)	160.77	306.00	
	輸出先国	UAE、フランス、アメリカ、台湾、南アフリカ	UAE、サウジアラビア、カタール、オマーン、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、イタリア、モロッコ、アルジェリア、アメリカ、南アフリカ、台湾、香港、シンガポール、マカオ等	
	取扱量(トン)	1,265	2,000	